― 高齢者福祉に関する意識調査結果まとまる ―

老後に不安を感じるが 67%

ねたきりになった場合、配偶者の介護を望む 76%
特に男性は妻の介護を望むが 90%

〈調査の目的〉

一月に実施した「高齢者福祉に関する調査」の結果がまとまりました。この調査は、これから高齢化社会を迎えて、村民が福祉に対しどのような考えを持っているのか、何を期待しているのかを、把握し、これからの福祉政策に役立てるために行なわれました。

〈対象者〉

村内の30才から59才までの各階層別の男女各五〇〇人合計一〇〇〇人の方々に郵送によるアンケートをお願いしました。

〈回収率〉

回収率は男性46・8%、女性66・6%で女性の方が身近な問題としているためか高くなっております。

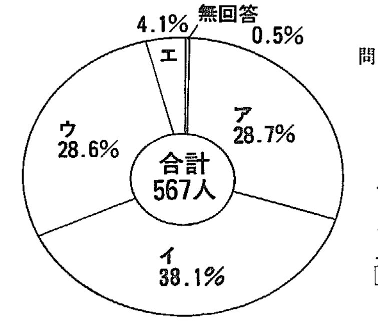
また、貴重なご意見、提案感想等もたくさんいただきました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。調査の中から一部をご紹介し、皆様方と今後の高齢化福祉政策について考えてみたいと思います。

老後の生活に不安を感じるかどうかに、ついては大いに感じていると、どちらかといえば感じているを合せると67%で、あまり感じていないの29%の二倍以上となっており、核家族化がすすむ現状では老後に不安を感じている人が多くおります。

もし、あなたが介護が必要となった場合、同居する誰に面倒をみてほしいかについては、男女共配偶者で76%、特に男性は、90%が妻の介護を望んでいます。

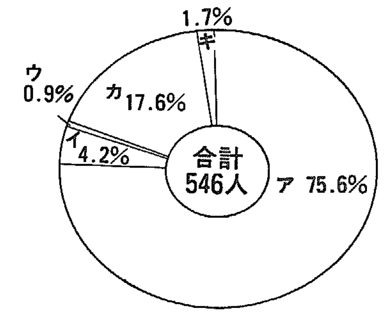
次に子供や孫、兄弟の順番になっています。

この順位は、男女とも同じです。



問1　あなたは「老後の生活」について、不安を感じていますか。

ア　大いに感じている
イ　どちらかといえば感じている
ウ　あまり感じていない
エ　わからない
□　無回答



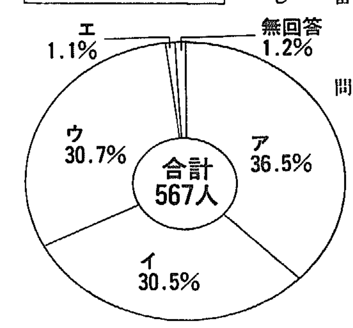
問2　もし、あなたが介護が必要になった場合同居する誰に面倒をみてほしいと思いますか。
（1位に掲げたものを記載）

ア　配偶者
イ　あなたの親
ウ　あなたの兄弟・姉妹
エ　あなたの叔父・叔母
オ　配偶者の兄弟・姉妹
カ　あなたの子供や孫
キ　その他

自分がぼけやねたきりになった場合、どこで介護をしてもらいたいかについては、自宅、病院、老人ホームなどの施設の順番になっています。

男女間では、特に相違は見られません。

これは、おそらく、子供や孫には、介護の苦労をさせたくないということ、子供とは同居できないだろうということで、自分達夫婦のことは、自分達で解決していこうということと、リハビリや施設の面である程度、ねたきりを防げるということが理解されているためと思われます。



問3　あなたが、もし自分がぼけやねたきりになった場合どこで介護をしてもらいたいと思いますか。

ア　自　宅
イ　病　院
ウ　老人ホームなどの施設
エ　その他
□　無回答

〈国の考え方〉

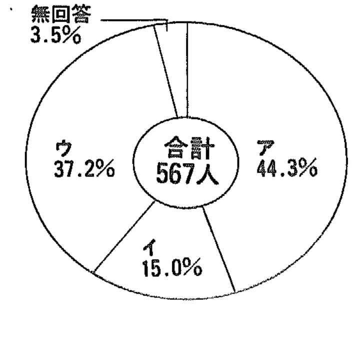
在宅介護が長くなると介護もマンネリ化したり家族に介護疲れが出てきて、介護者が病気になるということも考えられます。

しかし、介護を必要とするようになった老人は、家族と共に在宅で暮らすのが幸せであるという考え方から在宅福祉を推進しております。

〈村の考え方〉

在宅福祉と施設福祉の二本立で福祉を進めていく考えです。

具体的には、在宅福祉の中心となるホームヘルパーの充実と、村単独で建設できませんが、近隣市町村と一体となって特別養護老人ホームを進めていく考えです。



問4　あなたは、年をとって寝たきりになった場合、自宅でホームヘルパーなどに世話をしてもらう「在宅介護サービス」を受けたいと思いますか。

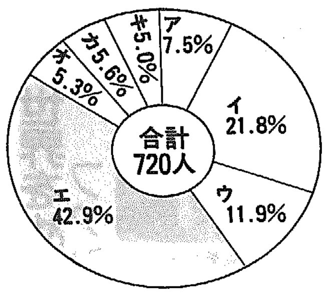
ア　受けたいと思う
イ　受けたいと思わない
ウ　わからない
□　無回答

ホームヘルパーの利用については、利用したいが44%、したくないが15%で、わからないが37%もあり、実際その場にならないとわからないというのが実態ではないかと思います。

ヘルパーを利用したいと思いながらも他人からきてもらうと気がねするというのが43%、手続きが面倒である22%、家の中を他人に見られたくないが12%などとなっています。

他人に対し、ためらいがみられできるだけ身内で解決したいという意識がうかがわれます。

もう少し、割り切って気軽に相談したり、利用していただきたいものです。



問5　もしもあなたが、ホームヘルパーを利用したいと思いながら、ためらいを感じるとしたらどんな理由ですか。
（複数回答）

ア　世間体がわるい
イ　手つづきが面倒だから
ウ　家の中を他人に見られたくない
エ　他人に家にきていただく事がかえって気がねする
オ　行政の世話になりたくない
カ　となり近所の手前はずかしいから
キ　その他

〈福祉と行政のかかわり〉

福祉は、行政が一方的に押しつけるのではなく、地域や家庭での自主努力が大切で、その中で行政として何が本当に必要なのか、何を望んでいるのかを的確に把握して福祉行政をすすめなければならないのでないかと思います。

〈意見・要望〉

○気軽に行政の援助が受けられるような体制づくりと近隣で助け合えるような地域づくりが必要　（33才・女性）

○男性の看護士や女性でも若い方のヘルパーの増員を望む　（39才・女性）

○経済的負担の面が一番心配公費の援助を望む。　（49才・男性）

○福祉関係の手続きがもっと簡単にできるように、又、期間を早くしてもらいたい。　（58才・男性）

○保健婦だけでは対応できないことが多いのでもう少し専門職の配置を。　（48才・女性）

○高齢者福祉については、皆関心をもっているので、もっとPRを　（43才・男性）

在宅ねたきり老人等介護手当支給事業

村では、四月から在宅でねたきり老人又は、身障者等で常時おむつを使用している者に対し介護手当を支給します。

これは、清潔で心地よい生活を確保するとともに介護にあたる家族の負担の軽減と福祉の増進を図る目的に実施します。詳細については、役場保健福祉課、福祉係（三八五―二一一一）にお訪ね下さい。

在宅ねたきり老人にオシメを給付

村では、四月から在宅ねたきり老人にオシメを給付し、介護家庭の負担等の軽減を図る目的で実施します。

健康シリーズ①

むしばまれているこどもたちの歯
～これでいいの？ボクたちのは～

今、横越村のこどもたちの健康をとりまく問題の中で、特徴的なものの一つとして**むし歯**の罹患率が高いことがあげられます。幼児・学童を問わず県下でも、むし歯が非常に多い村として注目されています。

たかが子どもの歯ではないかと思う方が多いのではないかと思います。しかし、年をとった時に歯の治療をしたり入れ歯になった時の原因を探っていくと、意外に子どもの時のむし歯が原因であることが少なくありません。また、乳歯の異常が永久歯に影響を及ぼすだけでなく、言葉や顔貌にまで影響を与えてしまいます。

こんなに多いむし歯！

こどもたちのむし歯は、全体的にみると、徐々に減少の傾向にあります。

3才児の状況をみると、90%の子どもにむし歯があったものが現在では、70%位まで減少し、県平均の60%に近づいてきました。しかし、その反面、1才6か月児では、15%前後を10年前から行き来しており、減少の兆しが見えません。さらに、この時期の子どもの歯は、生え始めてから数か月しか経っておりませんが、すでに5本以上むし歯になってしまっている子どももいます。（乳歯は上下10本づつ生えます。）県の平均をみると、すでに昭和55年度から10%を下回っていることからいかに横越村はむし歯の子どもが多いかがおわかりかと思います。ちなみに、平成2年度の実績では、1才6か月児については、112市町村中93番目、3才児については37番目でした。

どうしてむし歯になるの？

むし歯は、歯質・糖・細菌の3つの要因が重なったときにできます。そこで、歯みがきをしたり、おやつ等に気をつけたりします。ところで、村の子どもたちの様子はどうでしょうか。

○1才6か月になっても哺乳ビンをつかっている。（特に眠りながら飲んでいる。）

○だらだらとお菓子を食べている。

○はみがきをさせてくれない・一人で磨きたがる等から仕上げ磨きがされていない。

○ジュース・乳酸菌飲料が大好き。

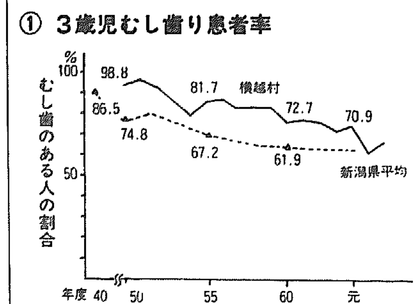
各ご家庭ではいかがでしょうか。

3才未満の子どもは、比較的保護者及び家族の庇護のもとで生活することが多いので、保護者及び家族の取り組み方が大きく影響します。

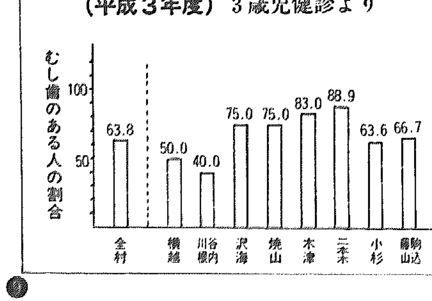
新潟県・横越村で歯科保健に取り組み10年が経過しました。全県的にみると改善されてきています。しかし、村の実態を見ると、県平均にも満たない状況にあります。そこで、住民の皆様と一緒に、この問題について考えていきたいと思います。

――次回は、保育園児・学童の実態について――

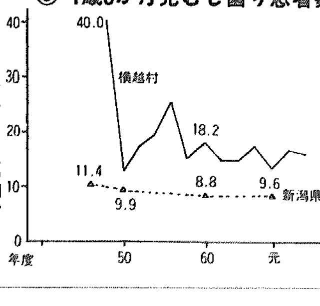
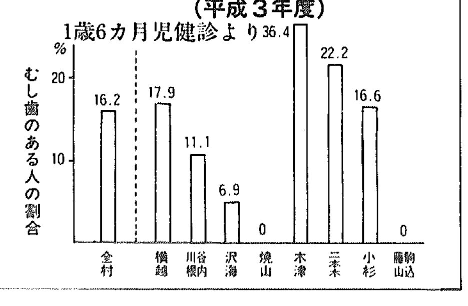
① 3歳児むし歯り患者率



② 地区別にみたむし歯の状況
（平成３年度） 3歳児健診より



③ 1歳6か月児むし歯り患者数



④ 地区別にみたむし歯の状況
（平成３年度）